

第 1 章

平成 19 年度 いんざい環境ニュース

平成 19 年度は、歩行喫煙・ポイ捨て等防止条例の制定や環境基本計画の見直しなどの大きな変化がありました。また、さまざまな環境保全の取組みの中で大きく貢献した環境活動を紹介します。

1 木下小学校(環境大臣賞の受賞)

平成 20 年 3 月、「第 14 回マイタウンマップ・コンクール」で、木下小学校の 5 年生が作成したホームページ「木下アクションプラン」が環境大臣賞を受賞しました。第 13 回においても、木下小学校の 5 年生の環境活動「木下の自然のめぐみ」が産経新聞社賞を受賞しており、2 年連続の入賞となります。

木下アクションプランは、木下小学校の 5 年生、63 人が 6 グループに分かれ、地域で活動する NPO*や市民団体と一緒に環境やまちづくり、まちおこしについて、「自分たちにできることは何か」を考え作成したものです。

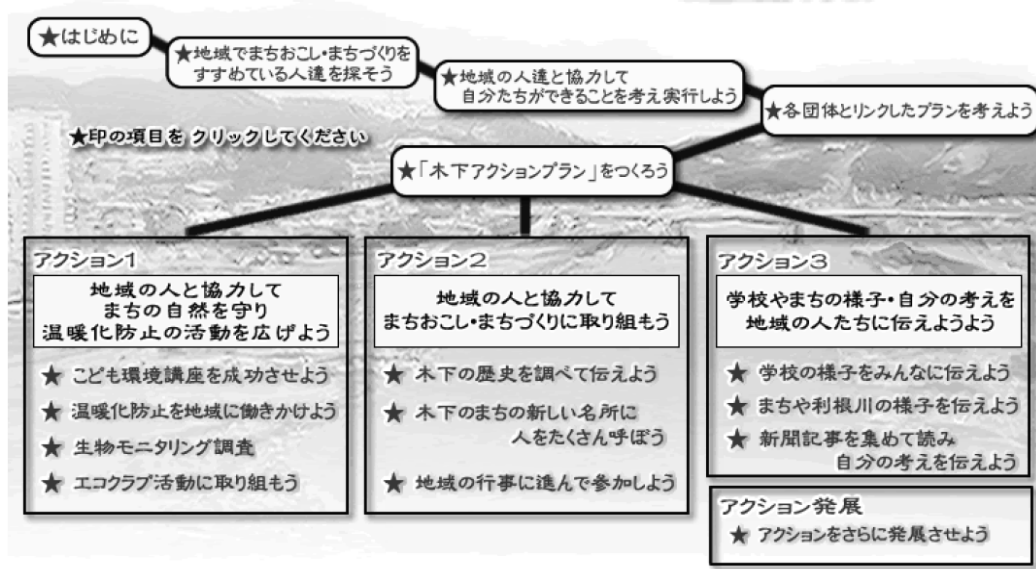


第 14 回マイタウンマップ・コンクール授賞式

ホームページでは、竹袋調整池周辺の整備、ケナフの紙すき体験、ごみ減量化やリサイクルによる温暖化防止活動、木下河岸や町屋保存、万葉公園での調査及び活動、まちの特色を挙げた「印西カルタ」を周辺小学校と協力して作製するなど、児童がプランを実践した様子が紹介されています。

いんざいりつ きおろし しょうがっこう
印西市立木下小学校 5 年生

木下アクションプラン 地域協働型アクション



平成 19 年度 印西市立木下小学校 5 年生作品

参考：木下小学校ホームページ <http://inzai.ed.jp/kioroshi-es/kodosen/kioroshi2/index.html>

■ コラム 「マイタウンマップ・コンクール」

地域の人々の暮らしや活動の情報をインターネット上で共有し合う「マイタウンマップ・コンクール」では、地域の特色や魅力など身の回りの生活情報を素材にした内容をホームページに載せて発信し、異なる環境に生きる人々に、共感と相互理解を生み出し、異文化を理解する基盤となることを狙いとしています。

参考：マイタウンマップ・コンクール事務局ホームページ

<http://www.mytownmap.or.jp/index.html>



The screenshot shows the 'MyTownMap' website interface. At the top, there's a navigation bar with links like 'Top', 'Awarding Process', 'About the Contest', and 'Past Winning Works'. Below this, the '14th Award-Winning Works' are listed in two columns. Each entry includes the award category, the winning work title, the author's name, and their affiliation. For example, under 'Environment Major Award', the winning work is 'Miyazaki Action Plan' by a 5th grader from Miyazaki City. Other categories include 'Internal Management', 'General', 'Foreign', 'Literature', 'Science', 'Education', 'Labor', 'Agriculture', 'Economy', 'Transportation', and 'Environment'.

また、地球温暖化や生態系の変化など、世界の環境問題を話し合う「G20 ちば 2008 記念国際フォーラム」に、木下小学校の5年生の児童たちが参加し、世界に向けて、自らの環境活動について発表しました。

今回のフォーラムでは、7月に北海道洞爺湖で開催されたG8サミットに先駆け、さまざまな分野の専門家が地球環境保全について講演し、途中に県内の小・中学校、高校、大学も参加し、各自が取り組んでいる環境活動を発表しました。



環境国際フォーラム
活動成果発表の様子

■ コラム 「G20」

正式名称を「気候変動、クリーンエネルギー及び持続可能な開発に関する官僚級対話」といい、2005年(平成17年)にイギリスで開催されたグレンイーグルズサミットにおける合意をきっかけに発足しました。

世界の温室効果ガス*主要排出国20カ国の環境・エネルギー担当大臣に加え、関係国際機関、産業界やNGO、NPOの代表等が参加し、気候変動・地球温暖化問題について議論を行います。

2

歩行喫煙・ポイ捨て等防止条例の制定

本市では、市民・事業者の協力のもと、ゴミゼロ運動※やクリーン印西推進運動※、不法投棄監視パトロールなどを実施し、まちの環境美化に努めてきました。

公共の場所は、誰もが安心して利用できる必要があり、ごみやたばこの吸殻のポイ捨てや安全上の問題が指摘されている歩行喫煙に対し、苦情や条例制定の要望が多く届いていました。

環境に関する市民意識調査の結果においても、市内の不法投棄、街中での歩行喫煙・ごみのポイ捨て対策を望む意見が挙げられています。



歩行喫煙、ポイ捨て防止等条例
啓発ポスター

こうした背景から、市民の皆さんの協力を得て、要望に応える形で「印西市歩行喫煙、ポイ捨て等防止条例」を制定し、平成20年1月15日に施行しました。

本年度の環境に関するアンケートの結果では、条例の認知度は回答者の約8割でした。また、市が進めていくべき取り組みとして、ポイ捨てしづらい環境の整備、取締りや罰則の強化、マナーとモラル向上の啓発が挙げられています。

今後は、ごみやたばこの吸殻のポイ捨て防止についてマナー向上を促し、市民の皆さんの協力を得て推進するとともに清潔で快適な環境づくりに努めます。

(環境に関するアンケートのポイ捨ての結果は、資料編P.41をご覧ください。)



市職員による啓発活動



イオンモールでのポスター展示

【主な規制】

① 歩行喫煙の禁止

○公共の場所で喫煙する場合は、立ち止まって携帯吸殻入れを使用して喫煙をしてください。

○ただし、重点区域内では、立ち止まっでの喫煙も禁止です。喫煙する場合は、必ず指定喫煙場所で携帯吸殻入れを使用してください。

② ごみのポイ捨て禁止

③ 飼い犬等のフンの放置の禁止

○犬等の散歩の際は、フンを放置せずビニール袋等で回収してください。

市長賞

ポイ捨ては 町と心を よごすもの

議長賞

気づいてね あなたが捨てた その重さ

教育長賞

なくそうよ 気にせず捨てる その気持ち



印西市歩行喫煙、ポイ捨て等防止条例に関する標語コンクール作品

この条例制定により、市内全域で公共の場所での歩行喫煙、空き缶等のポイ捨て、飼い犬等のフンの放置が禁止されています。施行後から、この条例について理解と協力を求めるために、重点区域に指定した千葉ニュータウン中央駅を中心に、歩行喫煙・ポイ捨てのパトロールを行ったほか、ポイ捨て防止キャンペーンやポスター展示などによる周知・啓発を行いました。

また、重点区域内での喫煙・ポイ捨ての違反者に対して、命令に従わない場合の罰則(過料の徴収 2,000 円)を規定し、平成20年4月1日から歩行喫煙・ポイ捨て等防止指導員が過料徴収することとなりました。

■ 歩行喫煙・ポイ捨て禁止 重点区域



■ コラム 「ポイ捨て禁止条例」

路上の「歩きたばこ」禁止条例としては、東京都千代田区が全国初の条例を制定しました。

平成14年10月1日から施行され、これをきっかけに全国の自治体に歩行喫煙の禁止や空き缶・たばこの吸殻、ごみのポイ捨て防止・禁止、犬等のフンの放置禁止などを規制する条例が広がりました。

印西市の近隣自治体においても積極的に取組まれ、市民の皆さん一人ひとりのマナーがルールとなり、安全で美しいまちづくりが進められています。

3 市民の環境活動(「不都合な真実」上映会)

平成 19 年 8 月 5 日に、平成 19 年度手賀沼流域フォーラムのプレイベントとして、市民(「不都合な真実」印西市上映実行委員会)が主体となり、文化ホールにおいて映画「不都合な真実」を無料上映しました。

上映会は、印西市の環境団体等 18 団体が集まり、「地球規模で手賀沼を考えよう、私たちができること」をテーマに実施し、上映には約 500 名が参加し、手賀沼の現状と地球規模での問題である地球温暖化について知ってもらうことができました。

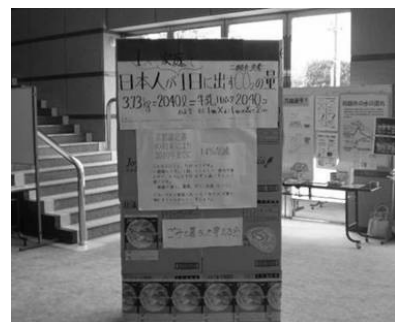
市では、市民が主体となり行う環境に関するイベントに一人でも多くの方が環境に興味を持ち、参加してもらえるよう協力しています。

また、身近な家庭環境から地球規模まで、自分にできることは何かと考え、環境活動に参加するきっかけなどに繋がるように啓発しています。

引き続き、市民参加による環境活動の支援、活動の促進をサポートしていきます。



「不都合な真実」上映会



市民団体パネル展示

■ コラム 「不都合な真実」

「～傷ついた地球を救うため、今の私たちに何ができるのだろうか? アメリカの元副大統領、アル・ゴア。温暖化によって引き起こされる数々の問題に心を痛めた彼は、人々の意識改革に乗り出すべく、環境問題に関するスライド講演を世界中で開き、地球と人類の危機を訴えてきた。その真摯で、ユーモラスな語り口に共感した製作者が、彼を主人公にした映画を製作した～」

(上映会実行委員会チラシより)

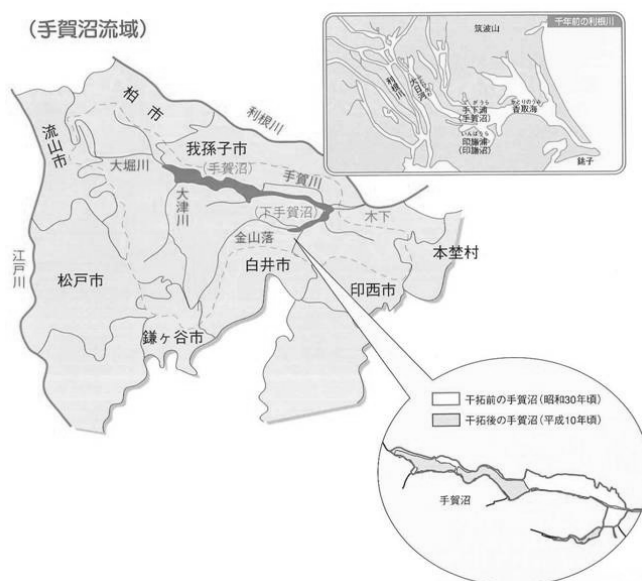


4

手賀沼清掃(流域市町村と協力)

手賀沼は千葉県の北西部にある海跡湖で、流域は、松戸市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市、印西市、白井市、本埜村の7市1村におよびます。昭和30年代後半からの都市化による急激な人口増加などによって、手賀沼に流入する生活排水が主な原因となり昭和40年代後半から水質が悪化しました。

現在は、さまざまな対策により水質は改善しています。



参考:手賀沼浄化対策パンフレット ～清らかな水をたたえ豊かで美しい手賀沼をみんなの手で!!～

千葉県 環境生活部水質保全課



清掃活動



不法投棄された冷蔵庫

市では、手賀沼流域の市村等と連携して、平成19年度に水質保全活動「手賀沼統一クリーンデー」を実施しました。

今回が初めてとなりますが、下手賀沼流入河川周辺において、印西市民及び流域市村、県、「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」と清掃を行いました。

清掃を実施した場所は、印西市と柏市の境目にあり、人通りが少ない場所のため、あまりに不法投棄が多く、一日でゴミを回収することはできませんでした。

今後も多くの市民に活動へ参加いただけるよう、手賀沼の水環境保全を進めていきたいと考えています。

5

環境基本計画の見直し

印西市環境基本計画策定から4年が経過し、環境に関する法律の整備や地球温暖化防止に向けた活動の動向など本市の環境行政を取り巻く状況が変化しています。

そのため、これらの状況への対応や主要課題の解決に向けた適切な目標設定などについて検討を行い、施策の実効性の確保を主眼に置いた計画の見直しを行いました。



■ 見直しの視点

- 市民、事業者の行動を喚起するための取組みを盛り込みました。
- 現在の国及び県の環境施策の方向性や、改定された「印西市総合計画※」との整合を図りました。
- 計画の進捗状況を踏まえ、これまでの課題や重要性の観点から後期5年間の取組みの重点化を図りました。
- 計画で定めた進行管理の仕組み(PDCA サイクル)に基づき、見直しました。
- 計画の進捗状況と社会情勢の変化を踏まえ、施策の実効性の確保を主眼に置きました。

■ 目指す環境の姿

前計画の目指す環境の姿を継承し、「大切な自然と安心できる暮らしをみんなで守り、育てるまち いんざい」としています。市民、事業者そして市が意識を変え、それぞれの役割を明確にして、協働による魅力ある「いんざい」を目指します。

■ 基本目標

基本目標は、「目指す環境の姿」を実現するための基本となる計画の柱です。

- 自然を身近に感じられる“まちづくり”
- 安心して生活できる“暮らしづくり”
- みんなで環境を育てる“しくみづくり”

■ 改訂版重点プロジェクト

重点プロジェクトは、他の施策より優先的に取り組むことが必要な施策、着実な進展が求められている施策を、より具体的に掲げています。

1. 里山の保全・活用に向けたしくみづくり

- 市民参加による里山の維持管理活動の促進
- 遊休農地の解消
- 自然観察会などの充実

2. 地球温暖化対策の推進

- 庁内エコプランの推進
- 「(仮称)地球温暖化対策地域推進計画」の策定
- 太陽光発電システム等の利用促進
- 「環境家計簿」の普及

3. マイバッグの利用促進

- ノーレジ袋デーの普及
- マイバッグキャンペーンの実施
- マイバッグ普及促進協力店の拡充